

## 助成活動実績報告書

企画名	アマモ場再生活動と日生の魚食調査を通じた人材育成
団体名	認定NPO法人 共存の森ネットワーク
<p><b>①活動の目的について</b></p> <p>高校生や大学生など時代を担う世代の人にアマモ場の自然再生活動と魚食調査を通して、日生地域の海と関わる暮らしについて考え、今後の日生地区の自然と共生する暮らしを担っていく若者を育てていくことを目的として実施しました。</p> <p><b>②内容について</b></p> <p>岡山県備前市日生町において、主に、①大学生・高校生を中心としたアマモ場の再生活動と日生地区の魚食文化に関する聞き取り活動、ならびに、地域への理解を深めるための地域の散策調査を行いました。また、そこでの知識や経験を元にしつつ、②日生中学校の海洋学習のサポートを行いました。</p> <p>①大学生・高校生によるアマモ場の再生活動、聞き取り活動、及び地域の散策調査</p> <p>■6月6-7日 於:日生町漁協・日生町 参加者:9人 内容 ・アマモの種の採取活動、及びアマモに関する勉強会を日生漁協、岡山コープと共に実施。 ・日生町の4軒の家に民泊を行い、それぞれの家で食されている日生の魚食について聞き取りを行いました。</p> <p>■10月10-11日(1泊2日) 於:日生町漁協、閑谷学校 参加者:12人 内容 ・アマモサミットのイベントに参加して、アマモ場の種の選別作業に参加しました。</p> <p>■2月27-28日(1泊2日) 於:日生町頭島、大多府島「かぜまち」 参加者:12人 内容 ・頭島にて地元観光協会の協力を得て散策調査を行いました。「地元学」の手法を用いて、参加者が注目したものについて話を聞き、それを島の地図にまとめる作業を通して、参加者の頭島への理解を深めました。</p> <p>②日生中学校のサポート</p> <p>・6月9-10日 日生中学校 1年生の海洋学習のスタートとして、2年生によるアマモのレクチャーと1・2年合同の流れ藻の回収作業が行われました。そのレクチャーの準備作業を大学生がサポートしました。また、アマモ場再生活動に関わる漁師や専門家6名に1年生が行った「聞き書き」の授業を、大学生5名がサポートしました。</p> <p>・7月～2月(数回に分けて)中学生が行った聞き書きのインタビュー内容をレポートにまとめる作業を大学生が定期的に中学校に赴き、指導しました。また、2年生が次年度に行われるアマモサミットに向けて作成しているアマモガイドブックの作成のサポートも行いました。</p> <p>[サポート参加人数のべ32人]</p>	

### ③この活動によって達成された成果

#### ■聞き取り調査と頭島での「地元学」実施を通じたより多角的な日生地域への理解の深まり

2年間の継続した活動を通して地元住民とのネットワークが広がったことにより、民泊による聞き取り調査を実施することができ、参加者の日生町に対する理解が深まったと共に、地域の方との交流が深まりました。

とくに、これまではアマモ場の再生活動や漁協役員への聞き取りなど、日生町の漁業関係者との活動が主となっており、日生町のそれ以外の家庭の暮らしについては知る機会がありませんでした。しかし、大学生が指導を行う中学校では、漁業関係者の子どもは減少しており、一般家庭の子どもが大半を占めており、指導する大学生側でも、日生地域についてより広い知識と理解が必要となっていました。そこで、今年の活動ではその理解をさらに深めるための聞き取り調査を行いました。より広い視点を得るために、これまでに接点の少なかった日生町の漁業者以外の家(海運業経営者、網工場、商店経営、会社勤務)に伺い、日生の一般家庭で食されている魚食について聞き取りを行いました。また、民泊を同時に実施することができ、日生住民と参加者との交流も深めることができました。

また、その際に日生の島の文化については話を聞いた参加者から、島の文化についても学ぶ機会を得たいという要望があり、2月には頭島の暮らしについて知るための地元学を実施しました。これまでは人の話を通しての地元の理解でしたが、実際に地域を歩きながら島の暮らしについての話を聞くことで、地域として日生について理解を深めてもらいました。

#### ■日生中学生のアマモ場再生活動と日生地域への理解の深まり

日生中学校の海洋学習の継続的なサポートの結果、昨年からサポートしている第2学年ではアマモに関するガイドブックの作成を行い、また、1年生へのアマモ場再生活動のプレゼンを実施することで、日生地域に関する関心と理解を深める活動を学年を超えて継承することができました。

また、「聞き書き」授業のサポートについて2年分の経験を蓄積することができ、中学校での授業サポート体制について見直すヒントを得ることができました。

### ④今後の計画・展望について

今年度の活動を通して、活動に参加する大学生が日生地区への理解を深めることができたと共に、地域住民との交流も深めることができました。ただ、活動参加者の裾野を広げるところはまだ工夫が必要で、今年度も新たな参加者は数名に留まりました。そこで、次年度は活動への参加者をより多く集められるように、魅力のある体験型の活動を計画し、呼びかけを行っていきたくと考えています。

また、中学校のサポート内容についても指導の方法を整理し、新しいメンバーがサポート役に加わるような仕組みを整えていくことが必要と考えています。

そのため、昨年に引き続き下記の3つの取組みを継続して行っています。

- ・中学生の授業を継続的にサポートできる体制の構築(資金面、人材面)
- ・日生の活動に参加する新規参加者の呼び込み
- ・日生漁協及び地元住民との協働の推進

特に次年度は、下記の件に力を入れて取り組みを行っていきたくと考えています。

- ・活動への新規参加者を増やすための、体験参加型の活動を企画し、SNSや口コミを利用した参加呼びかけを行う。
- ・中学校の授業サポートを新メンバーがサポート役として入ることができるように、海洋学習の授業サポートの方法を確立する。また、これらの取り組みを行いつつ、1年後に日生町で行われる全国アマモサミットにて活動の成果を広く一般に伝えられるよう、漁協、中学校等と協力して準備を行っていきたくと考えています。

## 写真等参考資料添付

### ■6月の活動の様子（アマモの種の採取活動・食文化の聞き取り活動）



### ■2月の活動の様子（頭島の地域調査の活動）



### ■日生中学生の海洋学習のサポートの様子

（地元漁師等への聞き書き授業、聞き書きレポートの作成サポート）

